

絵本の活用にあたって

この絵本は、東日本大震災から5年がたとうとしている頃を設定しています。

震災の教訓を踏まえて命を守ることの大切さ、いつもみんなが笑顔で生活できるようになってほしいという思いを伝えるために作成されています。

ページ	場面	絵本を読むにあたっての視点	
第一部 ものがたり編	2～3	家族で食事	・日常の何気ない生活の様子を表している。
	4～9	幼稚園での地震発生時の避難訓練	・先生の指示を聞き、身の安全を確保することの大切さを確認する。 ・地震が起きたときの身の守り方（屋外、室内での隠れるものがあるときとないとき）を理解させる。 ・海の近くでは、津波を想定して、海から離れた高台に避難することを知らせる。
	10～15	震災発生後の様子	・揺れの大きさや長さを知らせる。 ・地震のときはすみやかに「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所で身を守ることが大切であることを理解させる。 ・安全確保の大切さと怖い思いをしながらも子どもの命を守る両親の姿を伝える。 ・地震により、家の中だけでなく、外でも建物の倒壊や火災などの被害、けが人の発生などがあったことを知らせる。 ・大きな地震の後には余震があること、余震に注意して行動することを知らせる。 ・長い地震の揺れの後は津波が来るかもしれないので、急いで海や川から離れた高台の津波避難場所に避難することを知らせる。 ・津波が家や車を押し流したことや津波は何度も襲ってきたり、川を遡ったり、広い範囲に押し寄せたことを知らせる。 ・あの地震のときに逃げていなかったらどうなっていたかを振り返り、改めて命の大切さを感じさせる。 ・津波から逃げ遅れて大人も子どももたくさんの方が亡くなったことを知らせる。
	16～17	避難所での生活	・様々な人が家をなくしたり、家に住めなくなったりして、学校などの避難所で一緒に生活したことを知らせる。 ・災害直後は、日常生活用品が足りなかったり、電気や水道が止まったりしていたこと、不安な日々を何日も送ったことを知らせる。 ・避難所では、大人も子どもも協力し、困っている人や病気の人を助け合いながら生活した様子を知らせる。
	18～19	町の復旧・復興	・たくさんの人の様々な支援（公的な支援、国外からの支援）があって、復旧・復興が進んでいることをつかませるとともに、まだ復興途中であることを確認する。
	20～33	いつ起こるかわからない地震きずなの誓い	・地震はいつ起こるかわからないことに気付かせ、地震が起きたときにどのように対応すればよいのかを考えさせる。 ・地震の揺れを感じたら、机の下など「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所で、頭部を守ることを確認する。 ・身近な大人の指示を聞いて避難行動をとること、津波に備えて高台などの高いところへ避難することを知らせる。 ・津波に備えた行動をとり、津波が来なくても「津波が来なくてよかった」と思えることが大切であることを気付かせる。 ・地震のときはまず命を守ることが大切であること、そのための避難訓練をしっかりしておくことが必要であることを理解させる。
第二部 まなび編	35～36	屋外で地震が起こったら	・「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所に避難し、身体を小さく丸めて頭をしっかり守ることを確認する。
	37～38	室内で地震が起こったら	・「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所に避難することを確認する。 ・机の下にもぐり、机の脚をしっかり持って安全を確保することを確認する。
	39～41	海の近くで地震が起こったら	・津波が来ないことを確認できるまで、絶対に戻らないことを確認する。